

## 6 セミナーの評価

セミナーの評価は、自己評価による効果測定と参加者の満足度調査の2種の方法で行った。

### (1) 自己評価による効果測定

自己評価による効果測定は、本セミナーのターゲットである日本のNGO関係者を対象に実施した。今回のセミナーの効果について、セミナーを通じて参加者の能力（知識、技能、態度）に変容が見られると想定される10項目をセミナーの目的に沿って選定し、質問紙を作成した。セミナーの事前（開会の前）と事後（閉会の後）において、項目毎に5件法（4点満点）で参加者の自己評定による回答を求めた。次に、事前調査と事後調査の平均値を比較して、セミナーの効果を分析した。

5件法とは、「きわめてあてはまる」から「あてはまらない」までを5段階にわけて、該当する段階に○をつけるものである。今回は、「きわめてあてはまる」を4点、「かなりあてはまる」を3点、「わりとあてはまる」を2点、「少しあてはまる」を1点、「あてはまらない」を0点として得点化した。また、事前・事後の差が有意であるかどうかを対応のあるt検定を用いて検定した。

t検定とは、事前と事後の平均値の差が、誤差の範囲の変化であるか、それ以上の変化であるかを確かめる統計手法である。その差が誤差の範囲を超える大きい効果と認められた場合にはt値と有意水準（\*\*は1%水準、\*は5%水準で有意）を表に記し、誤差の範囲であまり変化が見られなかった場合は「n. s.」（有意ではないの意味）と記した。「1%水準で有意である」とは、本当は「有意でない」のに「有意である」として間違える確率が1%未満（100回に1回未満）であることを表す。

分析に入る前に参加者の特徴を紹介しておく。有効回答数は18であった（全員NGO関係者）。NGO活動の従事経験年数の平均値は4.1年（標準偏差は5.0）、中間値は3.0年で比較的経験の浅い人が参加していた。民主化支援についての研修を以前受けたことがある人はわずか3名（17%）だった。所属団体が民主化支援事業を実施していると回答した人は6人（33%）だった。

では、セミナーを通して参加者にどのような変化が見られたかを考察する。最も変容が大きかった項目は、②「国連民主主義基金の目的、優先分野を知っている」であり、1.3点の増加があった。これは、国連民主主義基金とはそもそも何かを知らなかったが、リッチさんの基調講演や池田さんの分科会によって、基金の目的などについて参加者が理解したことを示している。次に変容が大きかった項目は、③「民主化支援において取り入れるべき横断的な課題とは何かを知っている」で、1.2点増加した。参加者はジェンダーの視点の重要性を理解したことが伺える。

3番前に変容が大きかった項目は、①「民主化支援とはどのような活動を指すのかを知っている」であった。これは民主化支援の活動の内容を理解するために本セミナーは効果があったことを示している。

次に、⑥「他のNGOや現地政府機関とのパートナーシップ構築の方法を知っている」、⑦「民主化支援事業のプロポーザルの書き方を知っている」について参加者の変容が見られた。セミナ

ーに参加する前は、パートナーシップ構築やプロポーザルの書き方をよく知らなかったが、セミナーを通じて参加者はこれをある程度習得したと考えられる。

一方、⑨「国連民主主義基金に申請したい」、⑩「民主化支援事業を実施したい」は、統計的に有意な変容が見られなかった。これらの項目は、知識や技能の向上だけでなく、民主化支援事業の立案・実施に自信をもつという態度や価値の変容を聞いている。態度や価値レベルの改善は、1日間のセミナーでは達成することが難しいと考えられる。このレベルの改善は、実際に民主化支援事業の運営経験を積み重ね、失敗から学ぶことを通じて達成されるものなのであろう。

結論として、この効果測定結果によって、本セミナーの目標であった、参加者がセミナー終了時に、(1)民主化支援の枠組みならびに事業立案・実施に必要な留意点・ノウハウを学び、(2)国連民主主義基金および民主化支援財団・基金から資金提供を受けるための効果的な応募方法を知り、(3)国際 NGO、現地 NGO、対象国政府機関、国連機関との効果的な連携の方法を習得する、は達成されたと考えられる。

	事前調査			事後調査			平均値 の変化 分	t 値
	人数	平均値	標準偏 差	人数	平均値	標準偏 差		
① 民主化支援とはどのような活動を指すのかを知っている	18	2.0	1.2	18	3.0	1.0	1.0	4.1**
② 国連民主主義基金の目的、優先分野を知っている	17	1.2	1.1	18	2.6	1.0	1.3	4.1**
③ 民主化支援において取り入れるべき横断的な課題とは何かを知っている	18	1.2	1.2	17	2.5	1.3	1.2	4.0**
④ 私は、民主化支援プロジェクトを立案、実施できると思う	17	1.5	1.4	17	2.1	1.5	0.6	2.1*
⑤ 私は、民主化支援プロジェクトのモニタリングができると思う	17	1.3	1.4	17	2.0	1.5	0.7	2.6*
⑥ 他の NGO や現地政府機関とのパートナーシップ構築の方法を知っている	18	1.1	1.3	16	1.9	1.4	0.9	2.8*
⑦ 民主化支援事業のプロポーザルの書き方を知っている	17	0.9	1.1	17	1.6	1.5	0.8	2.7*
⑧ 民主化支援は、開発協力事業において重要な要素だと思う	18	3.1	0.9	16	3.6	0.7	0.5	n.s

⑨ 国連民主主義基金に申請したい	17	2.4	1.5	17	2.6	1.4	0.2	n.s
⑩ 民主化支援事業を実施したい	17	3.0	1.1	16	3.2	1.0	0.2	n.s

\*\*：1%未満（両側）で統計的に有意、\*：5%未満（両側）で統計的に有意、n.s.：統計的に有意ではない

## (2) 参加者の満足度

参加者に対してセミナー終了時に質問紙調査を行い、セミナーに対する満足度を伺った。以下がその結果である。回答者は54名で、このうち22名がNGO関係者であった。セミナーの目標のうち、民主化支援の概念および枠組み、民主化支援事業の運営方法、資金調達については達成度が高かったが、一方、連携の方法についての達成度は比較的低かった。

セミナーの良かった点として、午後の分科会がよかった、実践的・実用的な話だった、申請方法がわかったといった声が多かった。一方、悪かった点として、時間不足、議論が浅い、実践的な内容が少ないといった点があげられた。

アンケート協力者の属性	NGO関係者	22人
	NGO以外の国際協力組織関係者	9人
	研究者	7人
	学生	8人
	その他	8人
	合計	54人

以下の項目について5段階で評価してください。

		5	4	3	2	1	平均値
		高		中		低	
		人数					
1.セミナーの目標はどの程度達成されましたか？	1.民主化支援とは何か、国連民主主義基金とは何かを学ぶ	13	30	10	1	0	4.0
	2.民主化支援プロジェクトの立案・実施・モニタリングの方法を学ぶ	12	18	17	2	5	3.6
	3.国連民主主義基金や民主化支援財団から資金提供を受けるための効果的な応募方法を学ぶ	16	15	11	8	4	3.6
	4.国際NGO、現地NGO、対象国政府機関、国連機関との効果的な連携の方法を習得する	7	7	25	8	7	3.0

2. 午前の セミナー の評価	a.プレゼンテーションの分かりやすさ	17	26	9	1	0	4.1
	b.セッションの構成	18	18	16	1	0	4.0
	c.あなたの仕事への適用性	13	17	18	2	0	3.8
	コメントや提案 ・ Mr.Rich の講演後に質疑応答がほしかった ・ 1 日のセッションでは難しいが、具体的な申込方法を学ぶセミナーがあっても良かった。全体 は分かって、実際に申請を書くのは難しい。 ・ パワーポイントに整理されていて、効果的な発表だった。 ・ 民主化支援について重点的に学習できた。Mr.Rich から充実した話が聞け、参考になった。						

3. 午後の 分科会 の評価	<b>分科会 A</b>							
	a.プレゼンの分かりやすさ	10	7	1	0	0	4.5	
	b.セッションの構成	6	8	4	0	0	4.1	
	c.あなたの仕事への適用性	7	3	5	1	0	4.0	
	コメントや提案 ・ 今後の方策を含め、具体的な指示を頂いた。今後も草の根国際 NGO として推進していきたい。							
	<b>分科会 B</b>							
	a.プレゼンの分かりやすさ	9	9	3	0	0	4.3	
	b.セッションの構成	11	7	3	0	0	4.4	
	c.あなたの仕事への適用性	6	8	4	2	0	3.9	
	コメントや提案 ・ 素晴らしいリードでした。他人からのアイデアも刺激的でした。							
	<b>分科会 C</b>							
	a.プレゼンの分かりやすさ	8	5	2	0	0	4.4	
	b.セッションの構成	5	4	4	2	0	3.8	
c.あなたの仕事への適用性	4	4	7	0	0	3.8		
コメントや提案 ・ 「民主主義」を考える内容になったのは良かった。プロジェクト形成ワークとしては不十分。 ・ 具体的なケースについて分かりやすいプレゼンだった。が、時間的制約が残念。実施までの具体的プロセスを学ぶまでには至らなかった。								

4. このセミナーの良かった点は何か？	午後のセッションがよかった（参加型・具体的な内容・司会や通訳）	15人
	UNDEF セッションが実践的・実用的な話だった。申請方法がわかった。	8人
	多くの参加者と知り合えた・参加者が多様だった（政府・NGO・学生）	7人
	民主化支援基金の目的や活動を理解できた。セミナーの目標に共感。	6人
	たくさんの情報入手・NGO の参加者と価値観を共有	4人
	午前のパネルディスカッション・パネリストの選抜	5人
	時間配分・運営が良かった	2人
5. このセミナーの改善すべき点、悪かった点は何か？	・時間不足（質疑応答の時間が短い、スケジュール管理が悪いなど）	12人
	・内容面に問題（議論が浅い、実践的な内容無い、グループワークの進行が悪い、言葉の壁がある、タイトルと内容が異なる）	6人
	・参加者と講師の問題（参加者に人権・民主化 NGO が少ない、民主化経験のあるアジアの参加者・パネリストをより多く）	2人
	・長期で（2～3ヶ月）やってほしい。回数を増やしてほしい。	1人
	・参加者の交流・情報交換をもっと欲しい。	1人
	・基礎知識が無かったので知識がないことを前提でやってほしい。	1人
	・同時通訳の音声が入らないことがあった	1人
	・まとめの全体会があればよかった。	1人

### 3 結論

結論として、セミナーの目標は概ね達成され、参加者の満足度は高かったと言える。理由は、第一に民主化支援についての研修の機会は今まで限られており、多くの参加者にとって初めての機会であったこと、第二に、講師が国連、国際 NGO、現地 NGO、日本の NGO と多様性に富み、かつ経験・知見の豊富な講師陣であったことがあげられよう。

今後この種の研修を行う場合の提言としては、技能レベルの習得や態度レベルの向上のためには1日は短すぎ、3日間程度が必要であること、特に分科会セッションは長めにするこ、と、あげられよう。